



*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ — 人口減少と貿易の自由化 —
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 第10回「北海道みなとオアシス活性化協議会」を開催
(北海道開発局港湾計画課)
- 酒田港から初めて果物を輸出
(酒田市地域創生部商工港湾課)
- オアシス2019冬「イルミネーションドーム」を開催しました！
(佐渡市建設課)
- 愛称は海の森^{うみ もり}トンネル～東京港臨港道路南北線の名称決定！
(関東地方整備局 東京港湾事務所)
- 「目指すは無事故・無災害」境港外港竹内南地区貨客船ターミナル工事現場の合同安全パトロールを実施！！
(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)
- 「みなとオアシス門司港」が登録されました
(九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所)
- “沖縄のみなと”をテーマに出前講座を開催！
(沖縄総合事務局港湾計画課)
- 地元高校生向けの工事現場見学会を開催
(沖縄総合事務局平良港湾事務所)
- 沖縄と石垣島のみなとについて出前講座を開催
(沖縄総合事務局石垣港湾事務所)

3 お知らせ

◇イベント名：ひがた美人まつり ～ひがた美人でひととひとの貝合わせ～

*:

1 ポートエッセイ — 人口減少と貿易の自由化 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

あけましておめでとうございます。

オリンピック・イヤーを迎えました。

昨年のラグビーワールドカップでは、日本チームの活躍もあって「俄かファン」という言葉があちらこちらから聞かれるほど、日本中がラグビーで盛り上がりました。

政府は、東京オリンピック開催もあって2020年の訪日外国人は4,000万人を目標としておりますので、昨年以上の盛り上がりとともに日本各地へのにぎわいの波及を期待したいと思います。

一方、年末年始において日本経済、特に地域経済にとって気がかりなことが2つありました。

一つは、昨年12月24日に公表された厚生労働省の2019年人口動態統計の年間推計による人口の自然減が51万人とのことです。

出生数が初めて90万人割れの86万4千人となり、政府の予測より2年早い90万人割れとのことです。

国や自治体は、様々な対策に取り組んでいるものの、人口減少に加速が掛かっている状況になっています。

もう一つは、年明けとともに発効した日米貿易協定です。

一昨年末のTPP11、昨年2月の日EU経済連携協定の発効を背景に、昨年の4月から日米間で交渉をしていた物品貿易に関する協定です。

その市場規模は、TPP11(日本を除く10カ国)で約5億人、日EU経済連携協定(28カ国)で約5億人に対し、米国1カ国で3億人の巨大市場です。

海外市場の自由化が進むことは、人口減少により市場の縮小が懸念される日本にとって望ましいことではありますが、日本の産業も海外との競争に晒されることとなります。国際競争力の弱い業種にとっては貿易の自由化の拡大とともに、厳しい経営を迫られることにもなります。

ことは、この人口減少と貿易の自由化に悩む一年となりそうですが、国際物流で日本の経済に大きく関わる私たちとしても知恵を出し合い対策を考える一年としたいのでご協力をお願いしたい。

*:

2 トピック

*:

●第10回「北海道みなとオアシス活性化協議会」を開催

(北海道開発局港湾計画課)

12月16日(月)に第10回「北海道みなとオアシス活性化協議会」を開催しました。

本協議会は、「みなとオアシス」相互の情報交換と、みなとオアシスによる地域の賑わい創出に向けた取組の検討等を目的とした会であり、北海道で登録されているみなとオアシス運営協議会員等の関係団体が集い、平成23年度に設置されてから毎年1回開催しています。

今年度は、北海道で11番目となる「釧路みなとオアシス」が、令和第1号のみなとオアシスとして令和元年5月1日に登録されたことにより、運営者の「釧路みなとオアシス協議会」が新たに本協議会に加わりました。

当日は、事務局からみなとオアシスに関する話題が提供された後、各運営協議会からみなとオアシスでの活動状況について報告がありました。

また、意見交換では、各運営協議会の共通の課題である、活動資金、担い手、みなとオアシスの認知度不足等について熱心な議論が交わされました。

本協議会を通じ、北海道のみなとオアシス相互の連携と活性化が図られることが期待されます。



「第10回北海道みなとオアシス活性化協議会」の様子

●酒田港から初めて果物を輸出

(酒田市 地域創生部商工港湾課)

11月11日、酒田港から初めて庄内柿が輸出されました。今回の輸出は、酒田市産業振興まちづくりセンター(通称:サンロク)が、酒田市袖浦農業協同組合(JAそでうら)と農産物輸出業者である株式会社世界市場とマッチングに成功し実現しました。本輸出は庄内柿合計3.5トンに2回に分けて、20ftのリーファーコンテナで香港へ向けに行われました。今回は、脱渋方法や予冷手法をテストする試験輸出と位置付けられており、株式会社世界市場では来年度は輸出量を25トンまで拡大させる考えです。

なお、本輸出は今年度から酒田港湾振興会(事務局:酒田市商工港湾課)で新設した「農産物輸出

促進助成※」の対象となる見込みです。

※農産物輸出促進助成…酒田港からコンテナを利用して山形県産農産物を輸出した振興会会員荷主に対して1万円/TEUを助成(1荷主上限20万円)



輸出される庄内柿



バンニングの様子

●オアシス2019冬「イルミネーションドーム」を開催しました！

(佐渡市建設課)

12月15日(日)～25日(水)の間「イルミネーションドーム」を開催しました。本イベントは冬季におけるみなとオアシス佐渡両津の賑わいを創出するため、初の試みとしてみなとオアシス認定施設の一つである「おんでこドーム」を13,000球のクリスマスイルミネーションで彩り、期間中多くの方に楽しんでいただきました。

12月21日(土)～22日(日)は、Xmasマーケットと題し、「おんでこドーム」においてSea級グルメ等各種屋台の出店や授産製品の販売、佐渡の特産品である南蛮エビの大鍋汁無料提供、佐渡の伝統芸能「鬼太鼓」等の芸能披露、ストラックアウトやダンボール迷路などのキッズコーナーと盛りだくさんのイベントを開催し、約1,500の方が来場されました。

初の冬季イベントでしたが、多くの方に好評いただきました。今後も継続的にみなとの活性化に取り組んでいきたいと考えております。



イルミネーション



会場の様子

うみ もり
●愛称は海の森トンネル～東京港臨港道路南北線の名称決定！～

(関東地方整備局 東京港湾事務所)

東京港湾事務所では、国際コンテナ戦略港である京浜港の一翼を担う東京港において、円滑な物流を確保するため、中央防波堤地区と有明地区を結ぶ海底トンネル「臨港道路南北線」について、令和2年の完成を目指し、整備を進めております。

この新たに海底に誕生する沈埋トンネルの名称について一般公募し、東京都と連携しながら検討しておりましたが、このたび名称が以下のとおり決定いたしました！



南北線位置図

【名称】

とうきょうこううみ もり うみ もり
東京港海の森トンネル(愛称:海の森トンネル)

【選定理由】

本名称は、東京港の海の森エリアを通るトンネルの名称にふさわしく、立地性がはっきりし、受け入れやすい。

また、読みやすい文字で構成されており、末永く、多くの人に親しまれ、愛されることが期待できる。



アプローチ部（陸上）の様子



沈埋トンネル内部の様子

●「目指すは無事故・無災害」境港外港竹内南地区貨客船ターミナル工事現場の合同安全パトロールを実施！！

(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)

12月6日(金)、今春供用開始予定の境港外港竹内南地区貨客船ターミナル工事現場の合同安全パトロールを実施しました。

本貨客船ターミナルは、境港の背後に立地する企業の物流効率化を図るとともに、急増しているクルーズ需要やクルーズ船の大型化に対応するため、国内RORO船や大型クルーズ船等の就航にも対応した貨客船ターミナルを整備するものです。

昨年12月には工事現場が最盛期となり、無事故・無災害で着実に工事を完了することを目的とし、岸壁整備の発注者である境港湾・空港整備事務所、岸壁背後の駐車場整備の発注者である境港管理組合、労働基準監督署、工事受注者など、工事関係者が一体となり取り組みました。

当日はあいにくの空模様ではありましたが、工事が安全に行われているかを関係機関、事業者が互いに点検・指摘し、安全への配慮を再認識しました。



工事現場を巡回し、合同安全パトロールを実施

●「みなとオアシス門司港」が登録されました

(九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所)

令和元年11月15日に北九州市の門司港が「みなとオアシス門司港」として登録され、11月16日に開催された「北九州港開港130周年記念式典」に合わせて登録証交付式が行われました。

交付式には地元選出国會議員、北九州市長などおよそ180人の出席があり、国土交通省高田港湾局長より北九州市北橋市長へ登録証が手渡されました。

今回の門司港の登録により「みなとオアシス」は 全国で134箇所となり、福岡県内では宗像市の大島港に次ぐ2箇所目となります。

門司港では、旧大連航路上屋を代表施設とし、門司港駅や旧門司税関、関門海峡ミュージアムなどの15施設が構成施設として登録され、今後、イベントなどを通して観光客の増加、地域住民の交流促進を目指します。



交付式の様子



代表施設の旧大連航路上屋

●“沖縄のみなど”をテーマに出前講座を開催！

(沖縄総合事務局港湾計画課)

令和元年11月26日(火)、沖縄のみなどの役割や特徴を学び、港湾整備に対する理解を深めることを目的に、那覇市立与儀小学校5年生55名を対象に出前講座を開催しました。

児童らは普段から、社会科の授業で港湾の役割について学習するなど、講師の予想を上回るほど、港湾に関する知識を有しており、「海外からの物資は最初にどこに届くのか?」、「輸入品で最も多く取り扱っている貨物は?」などの質問のほか、「環境共生型防波堤」や「クルーズ旅行」について興味を持ってたなどと感想が寄せられました。



出前講座の様子



感想を述べる児童

●地元高校生向けの工事現場見学会を開催

(沖縄総合事務局平良港湾事務所)

14万トン級のクルーズ船に対応する岸壁の整備など、国際クルーズ拠点として着々と整備が進められている平良港において、将来の建設業の担い手育成を目的とした、平良港工事現場見学会が12月2日(月)に開催され、宮古総合実業高等学校の生徒40名が参加しました。

生徒たちは平良港の概要やクルーズ船の寄港増加などを背景とした国際クルーズ拠点整備事業について職員から説明を受けた後、漲水地区の防波堤外で進められている岸壁整備工事の施工状況を間近で見学しました。



座学講座の様子



現場見学



全員で記念撮影

●沖繩と石垣島のみなどについて出前講座を開催

(沖縄総合事務局石垣港湾事務所)

令和元年12月9日(月)、沖縄のみなど、石垣港の物流や石垣港が果たす役割などを学び、港湾整備に対する理解を深めることを目的に、石垣市立新川小学校5年生75名を対象に出前講座が開催されました。

石垣島では台風や荒天が続くとコンビニやスーパーで売られる食料品などが品不足になる状況を見ているためか、児童らの物流についての理解度はとても高く感じられました。また、那覇港のガントリークレーンの説明では、「最大級のコンテナ船の大きさは？」との質問や「航路を掘る方法」、「岸壁はどのようにできている？」など港湾土木に関連した質問もあがりました。さらに、石垣港のクルーズバースの説明では「クルーズ旅行」について興味があるなどの発言があがりました。



出前講座の様子



質問する児童

